

# 学力向上だより

新発田市立紫雲寺小学校

## 学力向上に向けた取組実践を行いました！

4月当初から、私たち紫雲寺小学校職員は、子どもたちの学力向上をめざし、各学年で日々授業改善を行い、子どもたちに「分かる・できる授業」に心がけて取り組んできました。今年度は、授業研究のテーマを「**学びの筋道が分かる授業の実現**」として、『**確かな振り返りにつながる授業**』を追求しています。そこでは、学習の終末時に、学びの感想が書けることをねらっています。その職員の取組（授業）を時には外部講師の方をお呼びし、互いに見合い、子どもたちの学習の伸びを確認したり、私たちの授業力のアップを図ったりしています。

この検討の場として、**授業研究**があります。授業研究は、全学級が授業を公開し、全員で検討します。各学級が授業のねらいを達成するためにとった手だてが有効であったかどうかを、授業における具体的な子どもたちの姿をもとに検討し合います。今年は「算数」をメイン教科とし、年間の研究授業を次のように予定しています。

【7月：5年、10月：6年、2年、11月：4年、12月：1年、1月：3年、2月：学び】  
その先駆けとして、第1回の研究授業を7月8日（火）に5年生が行いました。

## 5年生「算数」同じものに目をつけて

～ おきかえて考えて ～



### 1 授業の様子

当日、子どもたちは、算数の文章（長文）問題を、自力解決するために、文章から必要なキーワードを見つけ出し、図や線分図をうまく活用して、問題から式を作り出し、答えを導き出しました。時には、グループになり、少人数で話し合ったり、全体の場で意見を出し合ったり、自分たちの考えを交流させ確認し合いました。その内容を一部ご紹介します。

**1. ねらいと課題（問題）から学習の見通しをもつ。** → **2. 情報から自力解決を導く。**

ねらいをしっかりと受け止め、課題と向き合い、そこから解法の手がかりを見つけ出すことで、学習の意欲を高めました。そこでは、子どもたちは、キーワードや図、線分図に着目して、解法の手がかりとして考えていきました。

【めあて】 ○ 一方の量をもう一方の量におきかえて考えることができる。

\* 一方がもう一方の何倍になっているかな？ → 今日のキーワード

### 【問 題】

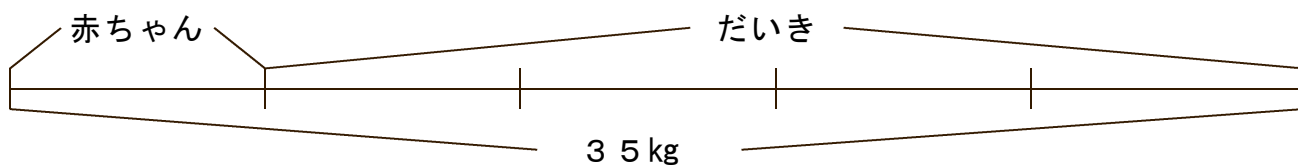
だいきさんが、赤ちゃんをだいて体重をはかったら、3.5kgありました。  
だいきさんの体重は、赤ちゃんの体重の4倍あるそうです。  
赤ちゃんの体重は、何kgですか。

① 図を活用する  =  × 4 →  +  =      = 3.5

<または>

\* 具体物で考え、わかりやすく整理する。

② 線分図を活用する



\* だいきさんの体重を赤ちゃんの体重におきかえて考える。

### ③ 式化に導く

#### 3. グループ、全体場で話し合う。

ここで、自分の考えに自信をもてない子どもたちのために、グループで考えを交流して話し合い、共に考えを出し合い、確認し合いました。

<子どもの考え>

線分図からだいきさんの体重を赤ちゃんの体重におきかえて考えると、 $1 + 4 = 5$  で、赤ちゃんの5倍が35kgだから、赤ちゃんの体重は、 $35 \div 5 = 7$ です。 答え. 7kg

そこで出た考えや解き方、式を全体場でみんなで話し合い、答えを見いだしました。

#### 4. ふり返りを行う。

今日の学習から分かったことや考えたことなどの感想や学びのまとめを書きました。

<子どもの感想>

ごちゃごちゃした難しい文章問題も、図や線分図を使い、だいきさんの体重を赤ちゃんの体重におきかえて考えると、わかりやすく答えを出すことができることがわかりました。



## 2 成果と課題

毎回、研究授業の後には、研究協議会を行っています。ここでの話し合いが、今後の授業改善にいかされ、子どもたちの学力向上につながります。今回は外部講師に、元水原小学校長の「阿部 武様」をお招きし、昨年に引き続き、ご指導していただきました。

\* 成果としては、次のことがあげられます。

- 授業の最初に、ねらいを明確にし、問題（課題）にじっくり向かい合わせることで、問題を解決しようとする意識が高まった。また、授業の終末に、ふり返り（感想）を書くことで、子どもたちが今日の学習の学びを意識し、自分の考えを見直したり確認したりすることができた。
- 図や線分図を使うことによって、これらを活用するよさを知り、式を立て、答えを導き出すことに役立つことに気づいた。答えを自力解決で求めることができる子どもたちが増えた。



\* 課題としては、次のことがあげられます。

- 子どもたちが自分たちの考えのよさを見つけた話し合いや活発なかかわり合いの中から、自ら学習の結論を見つけ出し、意見をまとめられるようになると、考えが深まり、問題解決学習がよりいきてくる。
- 子どもたちのつまづきや考えのズレをうまくいかしていくと、話し合いが焦点化され、自ら考え追求しようとする意識や学習意欲が高まり、考えがより深まっていく。

# 学力向上だより

新発田市立紫雲寺小学校

## 学力向上に向けた実践を行いました!



私たち教職員は、子どもたちの学力向上をめざし、日々授業改善を行い、子どもたちに「分かる・できる授業」に心がけて取り組んできました。授業研究のテーマを「学びの筋道が分かる授業の実現」として、『確かな振り返りにつながる授業』を追求しています。

これは、学習の終末時に、学習して分かったことや分からなかったこと、もっと調べてみたいことを書けるようにすることです。その職員の授業を時には外部講師の方をお呼びし、互いに見合い、私たちの指導力を伸ばす研修をしています。

### <今年の研究は、どんなことをわらっているのか!>

- 子どもには、…学習のふり返りが書けるようにする。授業で何が分かったか、何ができたのか、まだ何が分からないのかを書けるようにしたい。
- 教職員には、…子どもが分かり、できるようにするため、「ねらい」と「課題(問題)」を示し、自力解決させたり、互いの考えをかかわらせたりして、よりよい考え方やわらっている考え方を、みんなで見付け、解決していく授業を目指していきたい。

この検討の場として、**授業研究**があります。授業研究は、全学級が授業を公開し、全員で検討します。各学級が授業のねらいを達成するためにとった手だてが有効であったかどうかを、授業における具体的な子どもたちの姿をもとに検討し合います。その先駆けとして、第1回の研究授業を7月8日(火)に5年生が行いました。

## 5年生「算数」同じものに目をつけて ～ おきかえて考えて ～

### 1 授業の様子

当日、子どもたちは、算数の文章問題を、自力解決するために、文章から必要なキーワードを見つけ出し、図や線分図をうまく活用して、問題から式を作り出し、答えを導き出しました。時には、グループになり、少人数で話し合ったり、全体の場で意見を出し合って、自分たちの考えを交流させ確認し合いました。



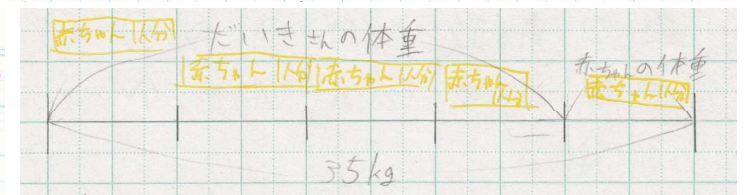
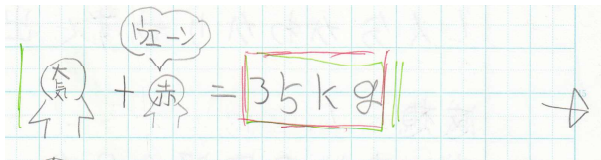
#### 【めあて】

- 一方の量をもう一方の量に置きかえて考えることができる。  
\* 一方がもう一方の何倍になっているかな? →今日のキーワード

#### 【問題】

だいきさんが、赤ちゃんをだいて体重をはかったら、3.5kgありました。  
だいきさんの体重は、赤ちゃんの体重の4倍あるそうです。  
赤ちゃんの体重は、何kgですか。 (下線部は、解法の手かがりとなる着目点)

## 【子どもたちの自力解決例】



## 【子どもたちが書いたふり返り例】

- ① おきかえて考えると、1人分が分かりやすく出せるということが分かりました。
- ② 図や線分図にすると、分かりやすいのが分かりました。おきかえて考えるといいと思いました。
- ③ 問題分がごちゃごちゃでも、線分図や図を使って考えると、分かりやすくなる。
- ④ ねらいの「おきかえて考える」と、1人分の代金や体重から、おとなやたいきさんのことが分かりやすく出せることが分かった。
- ⑤ 昨日より分かってきたし、図も分かりやすい。線分図もはやく書けてよかった。
- ⑥ 線分図がどんどん分かってきました。赤ちゃんの体重がパッとでました。
- ⑦ 分かりやすく答えを出すことができた。
- ⑧ おきかえるのはちょっと難しかったけど、たのしくできてよかったです。

## 2 考察

上記の①～⑧のふり返りは、どれも個人のまとめとしてはよいものですが、⑤～⑧は、その日の授業のまだ感想程度であり、自分の頑張ったことやできたことの記述にとどまっています。①～④は、そこから一步脱却して、その日の学習から分かったこと、新たに学んだことや考えたこと、その日に習得してもらいたい、ねらっている考え方をふり返りの中に書くことができています。

全員が「この授業から何が分かったのか」をふり返りに書けるように、日々の授業構成を工夫し、子どもによく分かる・できる授業に取り組んでいきます。とともに、今後、この授業では「まだ何が分かっていないのか」を書けるようになれば、それが次の授業の問題（課題）としていかされ、問題解決学習が続いていきます。



また、全体的な成果と課題として、次のようなこともうかがわれます。

○ 大切な言葉や数字を、図や線分図におきかえて考えた子どもたちが多数いました。最後のふり返りまでを45分以内でやり遂げることができたのは、課題を欲張らずに2つに精選し、じっくりと取り組んだ結果と考えられます。

△ 子どもたちが1番迷った場面は、言葉や数字を線分図に的確に表すことと、線分図から式を導き出す過程でした。特に、線分図から式化ができなかった子どもたちが見られました。



子どもたちは、これらの図や線分図をかくことから、全体で、赤ちゃんの  $1 + 4 = 5$  の5倍が35 kgであることに気づきました。 式  $35 \div 7 = 5$  答え. 5 kg

